

### 災害医療支援部活動報告

(1) 日本赤十字社原子力災害対応基礎研修会

標記研修会は、2013年に発行された日本赤十字社「原子力災害における活動マニュアル」に基づき開催された。日赤救護班を原子力災害に対応させるべく、被ばく医療についての教育、実習を既存の救護班に対して行うという、日赤の歴史の中でも意義深い試みの一つであり、医師・看護師・事務職員そして今後原子力災害下での救護活動に同行する診療放射線技師が対象とされた。

氏名	所属	氏名	所属
坂井征一郎	唐津（災害医療支援部）	西郡克寛	福井
松井久男	長浜（災害医療支援部）	上田一樹	舞鶴
高本研二	松山（災害医療支援部）	磯田康範	松江
仁杉好一	石巻	山根健二	広島赤十字・原爆
海藤隆紀	福島	駒井一洋	災害医療支援部
北澤雅人	水戸		

**緊急被ばく医療施設等所属 診療放射線技師（敬称略）**

災害医療支援部は日赤の緊急被ばく医療関連施設等に所属する技師（上表）と共に、早期から運営に関わっており、災害医療支援部のリーダーシップの下、技師 11 名が以下の打ち合わせ会等に参加。その後第 1 回・第 2 回研修会においては講師、ファシリテーターを務めた。

- 8 月 26 日 [日本赤十字緊急被ばく医療指定機関等担当者による意見交換会]
- 10 月 11 日 [日本赤十字原子力災害対応基礎研修会事前打合せ会]
- 11 月 4 日 [千代田テクノル及び技師間打ち合わせ]
- 11 月 5 日 [第 1 回日本赤十字社原子力災害対応基礎研修会]  
 参加施設数：37 医師：16 看護師：11 事務職：25 技師：12
- 2 月 20 日 [第 2 回日本赤十字社原子力災害対応基礎研修会]  
 参加施設数：43 医師：23 看護師：21 事務職：21 技師：21

上記 10 名の技師は実際の原子力災害発災時に、現地災害対策本部等で、緊急被ばく医療アドバイザーとして活動することが本社から期待されており、平成 27 年度ではこれらの技師と医師を対象とした、緊急被ばく医療アドバイザー研修が本社にて開催予定である。

一方原子力災害対応基礎研修会は来年度も 2 回本社で開催予定であるが、平成 28 年度からは、ブロック単位の開催になる可能性が高い。

(2) 講師派遣

各ブロックの要請により、ブロック研修会へ講師を派遣。原子力災害対応に関する講演等を行った。派遣した講師と研修会は以下のとおり。

- 9 月 7 日 松井久男 中部ブロック
- 11 月 8 日 坂井征一郎 東部ブロック
- 2 月 28 日 坂井征一郎 松井久男 高本研二 駒井一洋 近畿ブロック

特に近畿ブロック研修では本社原子力災害対応基礎研修会に準じたカリキュラムを行うことができ、今後の技師対象原子力災害研修のモデルケースを構築することができた。

### (3) 災害医療支援部会開催

3月1日(土)に和歌山医療センターで開催。全災害医療支援部員が出席。

- ① 近畿ブロック研修会の反省
- ② 今年度の反省
- ③ 原子力災害対応基礎研修会への課題

平成 28 年度からブロック単位の開催になる可能性が高い。技師会－被ばく医療施設技師－ブロック間の連携が必要である。また、今年度は災害医療支援部員が講師を務めたが、今後は他の技師にも講師を担当していただき、技師の知識とスキルの均てん化を計る。

- ④ 国際医療救援についてのアピール

現在本社に海外派遣要員として登録されている診療放射線技師は 9 名だが、そのうち 2000 年以降活動している者は 2 名。現在は 1 名しか派遣に出せない状況である。派遣要員の登録技師数を増やすためには、まず国際救援に興味を持っていただくことが大切。来年の学術総会において国際救援のセッションを設け、その概要説明と経験者による個別の活動報告等を発信して、会員にアピールしたい。

- ⑤ 災害時の日赤病院間での人的支援ネットワークおよびシステムの構築

現在、地震等による被災病院に対する人的支援システムが、診療放射線技師においては整備されておらず、実際東日本大震災において、被災病院への人的支援はなかった。本社－支部－病院の指揮命令系統に技師会が加わり、被災施設にあっては支援要請を出しやすく、支援側にあっては効果的な支援ができるようなシステムを構築することが望まれる。まずはモデルケースを近畿ブロックで作成し、その後全国へ広げてゆきたい。

### (4) 学会発表等

中田正明

第 30 回 診療放射線技師総合学術大会 (2014 年 09 月 19 日)

委員会報告 I (災害対策委員会) 【大規模災害に支援できる技師】

「日本赤十字社放射線技師会：災害医療支援部として、医療機器の貸出を経験して」

日本集団災害医学会誌 Vol119 No2 2014 発行

事例報告「東日本大震災における被災地での X 線装置の必要性について」

駒井一洋

第 50 回日本赤十字社医学会総会 (2014 年 10 月 16 日)

演題発表「日本赤十字社と協働する日赤診療放射線技師会の原子力災害への取り組み」